

防災・減災部門

応募事例名

住民が安心して暮らせる“まちづくり” ～丹波篠山市が目指す浸水対策と西日本豪雨での効果～

応募団体名)兵庫県丹波篠山市

応募事例の概要

丹波篠山市では、平成16年、平成25年と台風の影響により浸水被害が発生した。そこで、被災した糯ヶ坪(もちがつぼ)地区を対象に、ハード面・ソフト面の浸水対策を実施した。平成30年7月に発生した西日本豪雨では、これらの対策により浸水被害は発生しなかった。

ハード対策

ポイント1 既存ストックを活用した施設建設

- 既存ストック(水路・放流渠)の活用
- 狭小用地(160㎡)でのポンプ施設建設



ポイント2 河川部局との連携

河川事業を下水道事業で実施

工期大幅短縮

2.5～5年

約9ヵ月

ソフト対策

ポイント3 地域住民との協働・関係部局との連携

- 住民との協働体制の構築(自助・共助)
- まちづくり部との連携(公助)



PRポイント

- ・用地の制限により、既存ストックを活用し、狭小用地(160㎡)にポンプゲートを建設した。
- ・河川部局と連携し、河川事業を下水道事業で実施することで、工期を大幅に短縮した。
- ・自治会の参画による水防体制の構築により地域住民と情報を共有し、自助・共助の取組みを促進した。
- ・効果的な施設の運用を行うために、まちづくり部と連携し、水害を意識したまちづくりを推進した。
- ・ハード対策とソフト対策により、西日本豪雨での浸水被害防止につながった。
- ・他自治体の見学対応や大学の研究へのフィールド提供で国の防災力向上の発展に協力した。